



すぎこ 杉っ子

令和7年9月 4日 発行
学校だより 第5号
射水市立小杉小学校
TEL 0766-55-1055
E-mail kosugi-e@imizu.ed.jp

2学期のスタート

校長 杉 高 浩

33日間の夏休みが終わり、1年で一番長い2学期がスタートしました。7月、8月中は35度を超える猛暑日が続き、10日間計画されていたプール開放も、8月6日の一日のみの開放となりました。多くのPTA役員の方々に救命講習等も受けていただいたり、休みを取っていただいたりして準備万端であったのに、残念でした。

暑さ対策のため、2学期の始業式はテレビ放送で行い、子供たちはエアコンの効いた教室で式に参加しました。式辞では、「木こりのジレンマ」の話を使って、活動の前の下準備の大切さについて話しました。

33日間の長い夏休みが終わり、今日から2学期が始まります。残念ながら今日はいつも朝よりも曇っていて幾分涼しいのですが……中略……

2学期は3つの学期の中で、一番長い学期です。杉っ子ウォークをはじめ、杉っ子ステージ発表会、持久走記録会の他、多くの学年の校外学習など皆さんが楽しみにしている行事がたくさんあります。一人一人が全力を尽くして頑張してほしいと思います。しかしながら、長い学期の中をただただらだら過ごしてはとてももったいないですね。そこで「木こりの話」をしながら、どんな気構えてこの2学期を過ごしてもらいたいとお話したいと思います。

木を切るときに、持っている斧ですぐに作業を始めるせっかちな木こりもいれば、持っている斧を研いだ後に作業を始める慎重な木こりもいます。すぐに木を切る作業に取りかかる木こりの方が、時間を効果的に使っていて、早く木を切り倒せると思われます。しかし、斧の刃がこぼれていたり、錆びていたりしたら、そんな斧を力任せに木の幹に振り下ろしても、なかなか切り倒すことができません。いたずらに疲れが溜まり、結果的には効率の悪い作業となることがあります。



一方、斧の刃をしっかりと研いで作業に取りかかる木こりは、他の木こりが作業に取りかかっているのに、自分だけ作業ができなくて不安な気持ちになりますが、丁寧に研かれた斧は少ない力で効率よく木を切ることができ、結果的には他の木こりよりも早く作業を終えることができました。はた目には無駄な時間に見えるかもしれませんが、その下準備が作業効率を飛躍的に向上させることになる場合があります。

皆さんの学びもすぐに結果や答えが出るわけではありません。例えばタブレットを上手く学習に活用できていない人は、早く入力することができるようにキーボード入力の練習をしたり、ミライシードなどのソフトの色々な使い方をチャレンジしてみてもマスターしたりする、あるいは学校の図書室をはじめ、私たちの身の回りにはたくさんの本や新聞などがあります。本や新聞は私たちに知らなかったことに気付かせてくれたり、いろんなことを思い描いたり、考えたりする想像力を膨らませてくれたりします。つまりタブレットを使った学習の下準備をしたり新聞や本を読んだりすることに時間をかけてもそれは決して無駄な時間ではなく、むしろより効果的に前に進むための大切な熟成の時間となり、皆さんの学びを深めることになると思います。

……中略……

1学期のはじめに皆さんにお話した「3つの名人」(つづけ名人、つたえ名人、つながり名人)になるためにも、作業を始める前に下準備をしっかり行う慎重な木こりのように、自分は何に向かって頑張るのか、自分がどんなことを頑張って、どんな自分を目指すのかを思い描きながら、あせらずに必要な下準備をしっかり整ってからコツコツと取り組んでいきましょう。そうすることで、皆さんの笑顔は今よりもっと多く見られるようになることでしょう。そんな笑顔いっぱいの2学期になることを期待しています。

幼保小の円滑な接続について

～「架け橋期」について～

以前から保育園・幼稚園による幼児教育と小学校教育との連携の必要性が言われていました。令和の時代になり、「幼児期は遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期であり、小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていくことが必要。そのためには、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが必要」と文部科学省が述べています。「特に5歳児から小学校1年生の2年間で『架け橋期』と称し、この時期の教育の充実を図り、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくることが重要」とも述べています。この架け橋期の教育を充実するためには、幼保小はもとより、家庭、地域等と立場を越えて連携・協働することが大切です。

そんなことから、昨年度に引き続き、4月以来、学校の学習参観には校区内の幼稚園、保育園、こども園の先生方を招待し、1年生の児童を中心に学びの様子を見ていただいた上で、「架け橋ミーティング」を開催し、子供たちの成長等を共有してきました。また、この夏休み中には7日間に渡り、24名の教員が4つの幼児教育施設で遊びを通じた学びを体験させていただきました。参加した教員から「子供たちの声に耳を傾け、“やりたい”という主体性を大切にしたい活動の企画、環境づくりがたくさんあり、驚いた。先生方の企画力がすばらしく、小学校教員においても大切にしたい部分である。」や“やりたい”という思いを叶える教室環境を学びたい。保育園に比べて殺風景な教室であるため、児童にとっては環境面で急な変化があるのだと思った。遊びを生み出すことができる材料を置いたり、床に座ってゆったりと過ごす場をつくったりできないか考えてみたい。」等の学びの感想が聞かれました。

幼児期に育まれた資質・能力が、低学年の各教科等における学習に円滑に接続する教育活動となるよう、保育体験で得たものを生かし、さらに幼児教育施設の先生方との対話を大切にしながら架け橋期のカリキュラムの作成も行いながら、円滑な接続に取り組んでいきたいと思います。



避難訓練(地震・津波)実施

9月1日は防災の日ということもあり、本校では、地震・津波の避難訓練を行いました。相変わらずの猛暑日ではありましたが、あおい幼稚園さんも一緒に訓練を実施しました。午前9時35分に日本海で地震が発生し、震度5弱で揺れているという想定で行いました。子供たちは地震発生放送を聞いて揺れが収まるまで机の下に潜り込み、落下物から体を守りました。沿岸に高さ5メートル程度の津波が押し寄せているという2次放送を聞き、4年生以下の児童は頭をファイルや本で守りながら3階に避難し、津波警報の解除が出るまで静かに待機しました。解除後、各学級に戻って校内放送で校長の話聞き、振り返りを行いました。今回の訓練ではほとんどの児童が素早くかつ静かに行動することができました。

最近、能登半島やトカラ列島等、日本の色々な場所で地震が発生しています。また、南海トラフ地震や富士山の噴火等が近いうちに発生するのではないかという予想もされています。“備えあれば憂いなし”とは言いますが、何よりも地震・津波等の自然災害が起こらないことを心から願うばかりです。



机の下で身を守る児童



頭を守って避難する児童